

生涯学習分科会

ヒアリング資料

兵庫県三木市自由が丘公民館

兵庫県三木市の紹介

- 戦国時代、三木合戦によって荒廃したまちは、豊臣秀吉の復興策によって商工業が活発化し、今日の金物産業発展の基礎をつくった。三木金物ブランドは全国的に有名。
- 三木市と吉川町の合併により、名実ともに山田錦（酒米）の主生産地となった。
- 市域内を中国及び山陽自動車道が通過するなど、全国的にも交通の要衝として注目され、数多くのゴルフ場が立地するほか、「三木ホースランドパーク」「山田錦の館」「吉川温泉よかたん」「ネスタリゾート神戸」「県立三木総合防災公園」など、観光資源も多彩。



自由が丘地区の紹介 1

- 自由が丘地区は、昭和40年代前半から阪神間のベッドタウンとして神戸電鉄沿線に開発された新興住宅地。平成10年に約18,000人の人口ピークを迎え、現在は15,649人（令和5年10月末現在）で、三木市全体の約2割の方が自由が丘に住んでいる。
- 平成23年4月、自由が丘市民協議会がスタート。自由が丘をより安全・安心で快適なまちにするため、自由が丘公民館を地域の交流広場として充実させるよう取り組んできた。



自由が丘地区の紹介 2

「ふれあい ふるさと 住み続けたいまち 自由が丘」をキャッチフレーズに、市民協議会と公民館が協働で様々なまちづくり事業に取り組んでいる。

人口比較・高齢化率比較（令和5年10月末現在）

	人口	世帯数	高齢化率
三木市	74,171人	34,624世帯	35.33%
自由が丘地区	15,649人	7,327世帯	36.76%

外国人人口（令和5年10月末現在）

	人口	世帯数	人口割合
三木市	2,381人	1,868世帯	3.2%
自由が丘地区	521人	406世帯	0.7%

※外国人居住者の約22%が自由が丘地区に在住

（市人口74,171人に対し）。

自由が丘地区の外国人との関係づくり

- 2015年12月頃からシリア人家族の転入があり、その後、2016年には10家族が転入してくるなど入居者が増加。
- 入居した地区の自治会長が奔走し、国際交流協会の協力を得て、生活ルールの説明や、生活での困りごとの相談などを行い、地区住民との摩擦を避けるとともに、友好的な関係性を築いていった。
- その後シリア人の子ども達への学習支援が公民館や、小学校、中学校でも行われた。また地区集会所で外国人を招いてお好み焼き料理講習会を催した地区もあった。

自由が丘連合自主防災訓練の取組

- 阪神淡路大震災の次の年から、地域住民の安全と安心のまちづくりのため、防災訓練を実施
- 約600人規模で開催
近隣市町では一番大きな地区の訓練
- 訓練には中学生も参加
災害が発生した場合には、中学生として地域の救助活動に貢献できるよう、防災意識の向上をめざし、積極的な研修の機会としている。



外国人の防災訓練参加

- 地域内に居住する外国人が増加してきたため、多文化共生の観点から、国際交流協会の協力により、数か国語で書かれた「マニュアル」を用意し、外国人に参加を呼びかけた。
- 訓練当日は、国際交流協会及び関西国際大学の協力を得て訓練に取り組んだ。

その結果、外国人の参加者は年々増加。
災害発生時にはスムーズな避難が期待できる。



自由が丘公民館の取組

自由が丘公民館は、自治会とも連携し、一体となって地域コミュニティ活動、生涯学習事業、人権教育事業などまちづくり全般を共に推進してきた。

- 公民館では、乳幼児、女性、高齢者の生涯学習講座を年間通して開催している。
- 外国人の子どもたちも年々増加。次代を担う子どもたちの育成と多文化共生の推進を図るため、地域の指導者を発掘、育成し、夏休みの10日間、学習支援活動「自由っ子未来塾」に取り組んでいる。

教育委員会 生涯学習課の取組

●三木市高齢者大学

人生100年時代といわれる現在、公民館の高齢者教室受講生を高齢者大学へと繋げていき、その学びを地区に戻って循環させ、持続可能な地域づくりの担い手を養成している。



三木市の取組

●夜間中学支援事業の取組

十分な教育を受けられないまま中学校を卒業した人や外国籍の人などに夜間中学に就学する経費を負担する事業。三木市に在住するパキスタン人の5人きょうだいが、本年9月から兵庫県姫路市の夜間中学校に入学し通学されている。